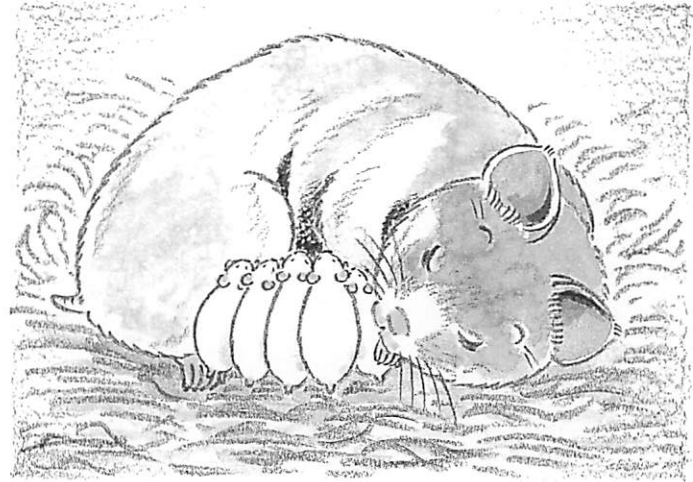


16 ハムスターの 赤ちゃん



ハムスターの 赤ちゃんが 生ま
れたよ。

生まれた ばかりの 赤ちゃん、
とっても 小さいね。

おかあさんの おっぱいを、いっ
しょうけんめい すってるよ。

けが はえて いないし、目も
あいて いない。

だいじょうぶかな。ちゃんと 大
きく なるのかな。

おかあさんが、赤ちゃんを 口に
くわえて いるよ。あたらしい す
にはこんで いるんだね。

おかあさんの まえばは、かたい
ひまわりの たねを バリバリ か
んで しまうくらい つよいんだっ
て。

でも、おかあさんは、赤ちゃんを



そっと かんて いるみたい。だい
じな たからものを まもって い
るようだね。

生まれてから 十日 たったよ。
赤ちゃんたちの からだが、とつ
ても 大きく なって いる。

けが はえて、せなかの もよう
が よく わかるよ。一ぴき 一ぴ
き、みんな ちがう もようなんだ
ね。

あれえ、ときどき かわいい あくびも するよ。

おかあさんの おなかに、みんな いっしょに くるまって、
とつても 気もちよさそう。

ハムスターの 赤ちゃん、早く 大きく なあれ。小さい
からだに、どんな カが つまって いるのかな。

みんなが げん気に あるきまわるのも、もう すぐだね。

16 ハムスターの赤ちゃん

3-(2) 生きることが喜び、生命を大切にすることを。 (生命尊重)

1 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

生命尊重は、人間尊重の根本になる価値である。生命にはすべての動植物の生命が含まれている。したがって、生命を大切にすることとは、人間を含めてすべての動植物の生命を大切にすることである。

動植物にも、かけがえのない命があるということに気付かせたい。さらに、どんな小さな命にも生きようとする営みがあることを理解させ、命あるものをいつくしみ、大切にすることを育てていきたい。

このことがやがて、人間の命の大切さ・生きていることのすばらしさに気付き、自他の生命を大切にすることを育てることにつながる。

〈子どもの実態について〉

二年生の子どもたちは、自分の身近にいる動物や植物に対しては、興味・関心が強く、大切に育てよう、大事にしようとする気持ちはある。しかし、長続きせず、つい世話を忘れてしまう

こともよくある。これは、動植物にも生命があり、生きているのだという意識が薄く、命の大切さに対する理解が必ずしも十分ではないからである。

そこで、本資料により、身近な生き物から生命の不思議さやすばらしさなどに気付かせ、生命を大切にしようとする心情を育てたい。

〈資料について〉


誕生したばかりのハムスターは、小さく弱々しい。はたして成長するものかという不安がある。しかし、母親のハムスターのもとで、着実に成長していく。このハムスターの成長の様子は、低学年の子どもにとって興味深く、驚きと発見をも与える身近な素材である。

生命あるものの不思議さやたくましさ、生命の尊さを十分に感じ取りながら、ねらいに迫りたい。

②ねらい

身近な生き物の誕生や成長の様子をやさしく見つめ、生命あるものの尊さを感じ、大切にしようとする心情を育てる。

板書



ハムスターの赤ちゃん

どんどん大きくなる。

○ 大きくなったね。

○ ちがうもようができるふしぎだね。

○ おかあさんのおなかは、あたたかくて、気持ちよさそう。

○ がんばって。

○ どんなハムスターになるのだろう。

○ いっしょにあそぼう。

○ いたくないかな。

○ おかあさんに食べられちゃうみたい。

○ おかあさんがまもってくれているから、あんしんして。

○ 小さいかな。

○ おいしいかな。

○ 小さな。

○ がんばって。

○ たくさんの中で、大きくなったね。

○ 小さな。

○ がんばって。

○ たいせつにしよう。

○ すばらしい

○ ふしぎ

○ すこい

3 展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) 身近な生き物の赤ちゃんについて、自由に発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どんな動物の赤ちゃんを見ましたか。それは、どんな様子でしたか。 <p>(2) 資料「ハムスターの赤ちゃん」を読み、ハムスターの赤ちゃんに話しかける。</p> <p>① お母さんのお乳を飲んで、生まれたばかりのハムスターの赤ちゃんに、お話ししましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たくさん飲んで大きくなってね。 ・ お母さんのお乳はおいしいかな。 ・ 小さくて、心配だな。 <p>② ハムスターのお母さんの口にくわえられているときの赤ちゃんにお話ししましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 口にくわえられて痛くないの。 ・ お母さんに食べられちゃうみたいだね。 ・ お母さんが守ってくれているんだよ、安心してね。 <p>③ 生まれて十日たったハムスターの赤ちゃんにお話ししましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きくなったね。 ・ 一匹一匹違った毛の模様ができるなんて、不思議だね。 ・ お母さんのおなかは、暖かくて気持ちよさそうだね。 <p>④ これからどんどん大きくなる赤ちゃんにお話ししましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がんばって、大きくなってね。 ・ どんなハムスターになるのかなあ。 ・ 早く一緒に遊ぼうよ。 <p>(3) 身近な生き物から、生命のすばらしさやたくましさを感じた体験について発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ みなさんの中にも生き物を飼っている人はたくさんいますね。その生き物が、すばらしいと思ったことはありませんか。 ・ ○○君は、家でインコの世話を一生懸命しているけど… <p>(4) 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物の赤ちゃんを見た経験を通して、話し合うことによって、資料への興味・関心をもてるようにする。 ・ (心のノート P57) ・ 「赤ちゃんは何匹いるかな。」等と問いかけ、子どもの関心を絵に引き付けるようにする。 ・ ハムスターの赤ちゃんに話しかけることによって、成長していく赤ちゃんの様子を共感的にとらえることができるようにする。 ・ 大切に育てている母親の深い愛情を感じ取ることができるようにする。 ・ 個々の個性を認め、同じように育てている母親の心情をとらえることができるようにする。 ・ 未知の力を秘めた成長のよこびに共感できるようにする。 ・ 多様な体験を数多く発表し合い、生命あるものの尊さを感じ、大切にしようとする心情を深められるようにする。 ・ 事前に実態把握したものを活用し、子どもに対話的に呼びかけるようにする。 ・ 生命の不思議さやすばらしさなどを感じ取り、生命を大切にしようとする実践意欲を高められるようにする。